

# 香港株式市場フラッシュ

## パフォーマンスが秀でる香港株式市場 IPO

リサーチ部 李一承

Tel: 03-3666-0707

E-mail: icheng.lee@phillip.co.jp



2021年3月30日号(3月29日作成)

### ”3年ぶりに好パフォーマンスを見せた香港 IPO “

2020年のIPO調達額が10年ぶりの高水準となった香港市場は、同年のIPO銘柄のパフォーマンスも好調だった。調査会社Windのまとめによると、20年の香港市場メインボードでIPOを果たした145社のうち、87社が上場初日に対公募価格で上昇した。87社のIPO初日(終値)の対公募価格での平均上昇率が18.1%に達し、前年の同8.6%を上回り、17年以来の上昇率となった。また、全てのIPO株を最低単位かつ公募価格で取得して、上場初日終値で売却したと仮定する場合、昨年1年間の合計利益が16.34万香港ドル(HKD)に達し、前年の6.73万HKDを大きく超えた。一方、IPOの人気沸騰を背景に公募株抽選の当選率が34.2%にとどまり、直近4年間で最も低い水準となった。

#### 2020年IPO値上がり率、および初日売却益の上位5社

コード	銘柄名	IPO初日上昇率 (%、対公募価格)	IPO初日売却益 (HKD、終値ベース)
2020年IPO初日値上がり率TOP5(対公募価格)			
1455	科利宝業HD	230	4,600
2115	捷心隆	214	7,700
1408	濠江機電	186	3,720
1429	天任集团	187	5,200
1936	RITAMIX	176	6,520
2020年IPO初日収益TOP5(対公募価格)			
6969	思摩爾國際	150	18,600
909	明源雲	86	14,200
1477	欧康維視生物B	152	11,170
9996	沛嘉医療B	68	10,440
1952	雲頂新耀B	32	9,600

出所:調査会社 Wind の公表資料よりフィリップ証券作成

### ”バイオテック企業の存在感が高まる香港市場 “

香港取引所が世界の主要なバイオテクノロジー市場に変貌を遂げたことも注目される。香港取引所が上場要件を緩和させ、18年4月以降、赤字のバイオテック企業でも香港市場でのIPOが可能となった。新規定(Chapter18A)に基づくバイオテック企業の上場社数が18年の5社から20年に28社へ、医療保険業全体の時価総額が17年の8,550億HKDから20年末に3.54兆HKDへ拡大した。

20年のIPO初日(終値)の対公募価格の平均上昇率をセクター別でみると、消費セクターの27.1%と医療保険セクターの24.4%が上位2業種となったなか、医療保険セクターのうち、20年にIPOを果たした赤字バイオテック株14社の平均上昇率が28.9%と群を抜いている。

#### 2020年の赤字バイオテック銘柄IPOの初日売却益上位5社

コード	銘柄名	IPO初日上昇率 (%、対公募価格)	IPO初日売却益 (HKD、終値ベース)
1477	欧康維視生物B	152.4	11,170
9996	沛嘉医療B	68.0	10,440
1952	雲頂新耀B	32.3	8,874
9995	榮昌生物B	34.0	8,850
9926	康方生物B	50.2	8,120

出所:調査会社 Wind の公表資料よりフィリップ証券作成

### ”セカンダリー上場銘柄のIPOも好調 “

バイオテック株に勝るとも劣らず、セカンダリー上場株も好調な推移を見せた。19年のアリババ(9898)による香港市場へのセカンダリー上場を皮切りに、20年のセカンダリー上場株はJDドットコム(9618)、ネットイース(9999)など9社を数えた。この9社の調達額が1,313億HKDに達し、香港市場のIPO調達額全体の34%を占めた。20年末時点、9社共に上昇を見せたなか、9月末に香港への重複上場を果たした再鼎医療(9688)の3ヵ月間の上昇率が84%に達した。

#### 2020年IPOのセカンダリー上場株の調達額と騰落率一覧

コード	銘柄名	調達額 (億HKD)	IPO初日上昇率 (%、対公募価格)	20年末の累計上昇率 (%、対公募価格)
9618	JDドットコム	345.6	3.5	51.3
9999	ネットイース	242.6	6.0	21.0
9987	百勝中国	172.7	▲0.4	7.7
9698	万国数拠	148.8	2.6	11.7
9901	新東方教育	116.5	14.7	17.0
2057	中通快遞	112.8	9.2	3.7
1179	華住集团	69.8	4.7	16.5
9688	再鼎医療	68.3	8.5	84.0
9991	宝尊電商	36.3	1.3	4.5

出所:調査会社Windの公表資料よりフィリップ証券作成

### ”2021年香港市場IPO調達額が過去最高の公算 “

データ会社AiIPOのまとめによると、今年香港市場IPOの調達額が4,200-4,600億HKD(170社)と、過去最高だった2010年の4,495億HKDを追い抜く可能性が高いほか、セカンダリー上場企業が10-15社、平均調達額100-150億HKDに上るとみられている。今年3月に入り、オートホーム(2518)とバイドゥ(9888)、ビリビリ(9626)の3社が相次いで今年初のセカンダリー上場を果たしたなか、春節前に香港IPO申請が伝えられた旅行サイト大手のトリップ・ドットコム(TCOM)が4月中にも後に続く見通しだ。大手ポータルサイトの新浪(SINA)や搜狐(SOHU)、出会いマッチングの陌陌(MOMO)、共同購入サービスの拼多多(PDD)、SNS大手の人人網(RENN)、求人サイトの51ジョブ(JOBS)も年内の香港IPOが確実視されている。このほか、中国ショート動画大手の快手科技(1024)に続き、世界ユニコーン上位企業に数えられるショート動画大手のバイトダンス、配車サービス最大手の滴滴出行も年内香港IPOが観測されている。

IPO招致に向けて香港取引所もあらゆる対策を繰り出している。20年にはIPO価格の決定から上場までの期間を短縮させたほか、種類株・セカンダリー上場株もハンセン指数の対象となることを決定、IPOのペーパーレス化なども実施した。足元では、SPACによる上場認可の検討を明らかにしている。SPACとはIPOを通じて資金調達し他企業の買収・合併を目指すもので、企業にとっては迅速なIPOが可能になるメリットがある。世界主要取引所との競争に打ち勝つために香港市場のIPOの魅力が高まることで、投資家の資金が益々集まっている点は注目されよう。

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘  
リサーチ部 李 一承

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>  
本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。